

## 「施策」総括票

施策展開	1-(1)-イ	陸域・水辺環境の保全
施策	①自然保護地域の指定等	
対応する 主な課題	<p>○沖縄の優れた風致景観や生物多様性を支える地域を保全するため、自然保護地域の適正な配置・管理、新たな保護地域の指定を推進することが求められている。</p> <p>○琉球諸島は、世界自然遺産登録候補地として高く評価されているが、自然環境保全に向けた法的担保(国立公園化)や生態系を脅かす外来種の駆除など、登録に向けての取組の推進が求められている。</p>	
関係部等	環境生活部、農林水産部	

### I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
主な取組		決算見込額	推進状況	活動概要
<b>○自然保護地域の指定等</b>				
1	自然環境保全地域指定事業	515	順調	○自然環境保全地域(12地域)の管理を行った。(1) ○鳥獣保護区(25地区)の管理を行った。また、新しく2地区の鳥獣保護区(粟国村、渡嘉敷村)を指定した。(2)
2	鳥獣保護区設定事業	140	順調	
3	やんばる地域の国立公園化及び世界自然遺産普及啓発事業	—	順調	
<b>○森林病虫害防除対策及び防除技術の確立</b>				
4	沖縄らしいみどりを守ろう事業	98,561	順調	○保全対策(調査・研究・実証)等を検討するため、保全対策検討委員会を設立した。また、松くい虫天敵昆虫防除技術開発を推進した。(4) ○松くい虫の薬剤防除、伐倒駆除等の防除対策を実施した結果、松くい虫被害量は1,390㎡から403㎡に減少した。(6)
5	松くい虫天敵野外定着・密度維持法の研究	7,209	順調	
6	森林病虫害防除事業	49,888	順調	

様式2(施策)

II 成果指標の達成状況 (Do)

(1) 成果指標

		成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
1		自然保護区域面積	53,473ha (23年)	54,299ha (24年)	54,542ha	826ha	—
	状況説明	平成24年度は、2地区(栗国村、渡嘉敷村)を新しく鳥獣保護区として指定した結果、826haの改善が見られた。現状値と平成28年度の目標値の差は243haであることから、今後、4年間で2地域を新たに追加することにより、成果目標の達成が見込まれる。					

(2) 参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

III 内部要因の分析 (Check)

<p><b>○自然保護地域の指定等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状値と平成28年度の目標値の差は243haであることから新たな自然環境保全地域の指定に向けた体制の検討、関係機関との調整を行う必要がある。</li> <li>・世界自然遺産に登録されるためには候補地となる地域の国立公園化が必要であるが、国立公園化は規制が伴うことから、県民はもとより地元地域の理解が必要となるため、奄美・琉球の世界自然遺産登録に向けて、地域住民の意識等の状況を把握した上で、更なる取組につなげていく必要がある。</li> </ul> <p><b>○森林病虫害防除対策及び防除技術の確立</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林病虫害は、その種毎に通年発生するものや、年1回発生するもの等発生状況が多様であることから、病虫害の生活史等、生理生態に応じた年間を通じた研究が必要である。</li> <li>・松くい虫の天敵(クロサワオオホソカタムシ)は、被害マツの小径部位に生息する松くい虫(マツノマダラカミキリ)へ多く寄生することが明らかとなった。このため、被害マツの大径部位に生息する松くい虫への寄生を促すために、松くい虫の天敵の生態をさらに調査、研究する必要がある。</li> <li>・平成24年度に開発した松くい虫を隔離するための天敵放飼・分散箱による隔離効果は99%であったため、松くい虫を100%隔離する技術を確立する必要がある。</li> </ul>
---

#### IV 外部環境の分析 (Check)

##### ○森林病虫害防除対策及び防除技術の確立

・近年の地球温暖化や世界的物流の活発化により、気流や海流による熱帯、亜熱帯性害虫の北上だけでなく、人為的な緑化木や農林水産物の移動にもなう北からの害虫の侵入も懸念される。

#### V 施策の推進戦略案 (Action)

##### ○自然保護地域の指定等

・林業関係者や地元市町村等の関係機関とともに、自然環境保全地域の候補地の選定方法、必要となる調査の内容、手続き等、新たな指定に向けた考え方を整理する。また、その考え方に基づき、候補地の選定を行い、新たな指定に向けた体制を整える。  
・今後の世界自然遺産登録の早期実現に向け、地元説明会や意見交換会を開催することにより、地域住民の意見を集約し、必要な取組について検証する。

##### ○森林病虫害防除対策及び防除技術の確立

・国、県、学識経験者等により構成する保全対策検討委員会において、森林性病害虫の発生状況の把握、生活史、生理生態に応じた年間を通じた保全対策の調査、研究、実証を推進するとともに、新たな侵入害虫についての情報を把握する。  
・研究項目に野外調査、室内実験による松くい虫の天敵(クロサワオオホソカタムシ)の生態を追加し、野外放飼による松くい虫寄生率効果の上昇を図る。  
・引き続き天敵放飼・分散箱(松くい虫の天敵のみ開放できるボックス)の開発を行い、松くい虫を100%隔離する技術の確立を図る。  
・侵入害虫については、ホームページ等により公開し、国、市町村等の関係機関と連携を図る。